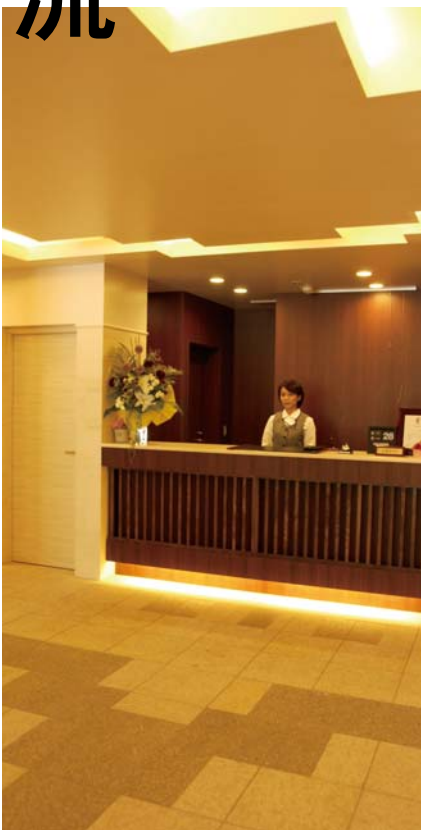


# 生活を豊かにする 子育て世代との交流

地域社会のつながりが薄れ、高齢者と子どもが接する機会が減少している。しかし、高齢者が子どもから元気をもらうこと、子どもが高齢者から学ぶこともあるはずだ。交流のある暖かいコミュニティを志向する高齢者ホームを紹介しよう。

## マストライフ古河庭園



高級感のあるエントランス。共通のフロントの先に、子育て世代、高齢者それぞれの住居がある



サ高住エリア内の居室。約41㎡の広がりのある空間

東京都北区西ヶ原は、由緒ある庭園に囲まれた街だ。東側には旧古河庭園が広がり、また北側には桜で有名な飛鳥山公園、南側には「江戸の二大庭園」に数えられる六義園が隣接している。西ヶ原銀座、染井銀座、霜降銀座など歴史ある商店街が立ち並び、生活環境としても恵まれている。緑と文化に囲まれたこの地に建つマストライフ古河庭園

は、賃貸マンションとサービス付き高齢者住宅（サ高住）が一体となった住宅だ。運営を担う積和不動産アセット部の峯一さんは「自立したアクティブシニアの方が子育て世代と共生できる、新しいタイプの住まいです」と胸を張る。

迎えてくれるエントランスでは、2手に導線が分かれている。向かって右手が子育て世代向けの賃貸マンション、左手がサ高住だ。ひとつの建物



サ高住エリアの食堂。火曜日以外の毎日、朝夕のメニューを取り揃えている

の中でエリア分けが明確になされており、それぞれ異なった造りとなっている。

サ高住の居室は、マンションと変わらない快適で落ち着いた空間を確保しつつ、人感センサーや緊急通報装置など高齢者ホームならではの設備を完備。また、コンセントやコンロ・換気扇のスイッチの位置など、細かい部分での「使いやすいさ」も追求した。「住宅メーカーの視点から高齢者住宅を見たとき、これま



5階にある両住宅共有の屋上庭園。持ち家から移った高齢者も多いため、栽培スペースは欠かせない存在だ



建物内のレンタルトラックルーム。自宅から持参した「どうしてでも捨てられないモノ」を保管できる

で培ってきたユニバーサルデザインノウハウを存分に生かし、自分で生活しやすい環境を整えるべきだと考えたのです」と峯さんは語る。基本的には自分の力で生活するための場だが、要介護になっても提携先の介護事業所のサービスを利用して住み続けることができ、提携先の医療機関を利用した在宅医療も可能だ。一方で、館内には子育て世代との交流可能な共有スペースを数多く備えている。5階の屋上庭園では、子育て世代とサツマイモの苗植え会を行い、秋には収穫祭を予

定している。都会的な便利なマンションでも子どもと一緒に土いじりを楽しめるのだ。「高齢者だけで暮らすのと、子どもの声が聞こえる環境で過ごすのでは生活感も異なるはず。一方お子さんにとっても、核家族が進む中で高齢者の方と接する貴重な

機会が持てる。交流は、高齢者の方とお子さん両方にとって意義があることだと思うのです」（峯さん）子どもとばったり出会えば、どちらからともなく挨拶する。気持ちの通じ合う交流が、生活を豊かにしてくれるはずだ。

## どんな時でもお声がけ下さい！

フロントコンシェルジュ 川崎朝子さん  
一人でお住まいのシニアの方は、何かしらさびしい気持ちをお持ちです。「特別の用がなくてもフロントに遊びにいらしてくださいね」と積極的に声がけがいたしています。



「シニアの方からお子さんからも元気をもらえる、楽しい仕事です」

皆様からのご要望やお身体の様子などには特に気を配ります。コンシェルジュは2名の交替制ですが、引き継ぎメモにどんな書きこみ、情報共有を心がけています。入居された方がご入居時よりもお元気になれているのを感じると、とても嬉しく、やりがいを感じますね。



建物手前側がサ高住にあたるエリア、奥の建物の大半（4階のぞく）が子育て世代向けのエリア。エントランス脇には共有のウッドデッキも